姫工新聞

発行所
兵庫県立姫路工業高等学校
姫路市伊伝居600番地1
（079）284-0111
編集発行
新聞部
編集責任者　藤原万那花

インターンシップ

11月8日(月)～12日(金)の5日間にインターンシップが行われた。インターンシップでの経験ついて、2D小畑咲良さん(広畑中)2W河嶋立さん(増位中)の二人にインタビューをさせてもらった。

小畑さんは神戸新聞社さんにお世話になったそうだ。

小畑さんは「人によって様々な新聞への関わり方があるのだと知った。また、取材をするときは話を聞く前に人間関係を築くことが大切だと学んだ。挨拶では姫工で身に着けたあひるが役に立った」と話していた。

印象に残ったことは、播磨製作センターの立体紙庫に1.3tもの巻取紙が積んであったことだという。また、その建物は阪神淡路大震災での学びから免震構造という造りになっているそうだ。地下にある積層ゴムが建物全体を支え、震度7まで耐えることができるのだという。

「働くということは、いろんな人と関わるということなので、コミュニケーションの取り方と仕事に対する熱意が大切。仕事内容によっては私生活にも仕事が関わってくることがあるが、そういった場合も真摯に対応しなければならないと思った」と話していた。

「最初は人の目を見て会話するのが苦手だったが、インターンシップに行って人の目を見てその人自身と向き合うことが大切だと学んだ。今回の学びをこれからの人との関わり方に生かしていきたい」と話していた。

河嶋さんは山陽特殊製鋼株式会社さんにお世話になったそうだ。

河嶋さんは「高校と職場は全く違いかけ離れていると思った。職場の人は一つ一つにこだわりを持ってものづくりをし、会社の目標に向けて行動していた。自分も将来に向かって目標を立て、勉強や部活動を頑張っていきたい」と話していた。

上下関係の面で学んだことは、新人は先輩の背中を見て成長するということだそうだ。

教えて頂いたことの中で印象に残ったことは「ご安全に」という挨拶だそうだ。朝昼晩で交代しながら働くので、挨拶が統一されているそうだ。

「働くこととは、お客様のことを一番に考え、どんな時でも良い物を提供することだと知った。これからの学校生活では、もっと慎重に自分のことだけでなく、他人のことを考えて行動していきたい」と話した。

インターシップではたくさんのことを学ぶことができただろう。その学んだ事を学校生活やこれからの進路に役立ててほしい。

（3D　宮下）

千姫と男山

皆さんは「千姫の小径」を知っているだろうか。千姫の小径は好古園の裏にある、左右を川に挟まれた散策路である。

今回はそんな千姫の小径を実際に歩いてみた。長さは500メートルほどあり、散歩に使っている人を何人か見かけた。道の途中には歌碑があり、千姫と千姫の夫本田忠刻の名前が記されている。

▲千姫の小径の歌碑

調べてみたところ
初秋の風を　簾にまきとりて
軒はにおふ　竹の葉の露
（忠刻）
（千姫）

と書かれており、軒までのびた竹にこの幸せがずっと続くようにと、想いが込められていることがわかった。

千姫は父徳川秀忠と母江の間に生まれた。父の秀忠は徳川家康の息子にして徳川幕府の2代将軍で、母の江は織田信長の妹の娘である。

千姫は19歳の時に「大坂夏の陣」により燃え盛る大阪城から救出され、江戸城に送り届けられる途中で桑名城主本多忠刻に一目惚れしたそうだ。そして、家康が千姫の気持ちを汲んで忠刻と結婚させたという。

千姫が忠刻と結婚した翌年忠刻の父本多忠政が姫路城の城主となり、一緒に姫路城に入った。姫路城での暮らしは幸せであったが、息子の幸千代が3歳でなくなり、その後も流産を繰り返した。男山に信仰していた天神(菅原道真)を祀る天満宮を建立し、魔よけとして持っていた羽子板を奉納して本多家の繁栄を祈ったと言われている。

ごーごーしんぶんぶ特別版

千姫の小径の起点である市乃橋のたもとには、千姫の像も立っている。この像は千姫がいつも願いを捧げていた、男山の千姫天満宮を向いているらしい。少し見つけにくいが興味があったら是非探してみてほしい。

▲千姫像

男山にも実際に訪れてみた。男山は姫路城天守閣の北西に位置する標高57・5メートルの山である。

山頂に整備された配水池公園へと延びる階段はかなり急勾配となっていた。登り切る頃には息が切れていたが、そこからは姫路の町を見渡すことができ、良い景色が見られた。いつもは見上げている建物たちが下の方に見えるため空がとても広く感じられ、その中で雄大にそびえ立つ姫路城はとても美しかった。男山配水池公園からの景色は、姫路城が最も美しく見える姫路城十景のひとつに選ばれているそうだ。また、公園自体も丁寧に手入れされており、花壇には色とりどりの花が美しく咲いていた。ちなみに配水池公園からは姫工の校舎も見えた。

▲配水池公園階段

▲男山山頂の木
この木は姫工からも見ることができ、矢印で示した木と同一のものです。姫工から姫路城を見て、視線を右にずらすと見つけることができます。

男山の山頂脇にある男山八幡宮には厄除開運・武運長久・安産祈願、中腹にある千姫天満宮には学業成就・武道上達・恋愛成就のご利益があるそうだ。千姫天満宮の社殿は千姫が姫路城内から拝むために東向きに作られているのだという。本殿前の絵馬掛けには千姫が奉納した羽子板にちなんだ、羽子板形の絵馬が吊り下げられていた。また、千姫天満宮には子孫繁栄などの願いが込められた牛の像があり、撫でるとご利益があるとのことだ。

姫工から自転車で行ける場所なので、参拝しに行ってみてはどうだろうか。

（3D　藤原）

▲千姫天満宮御朱印

十二所神社

山陽姫路駅裏の「十二所神社」を訪ねた。御祭神を少彦名大神とし、御神紋は「ヨモギの葉」である。

由来は一千余年前まで遡る。付近に疫病が流行し里人等が大変苦しんでいた時、一夜のうちに12本のヨモギが生えてきた。里人等が不思議がっていると、少彦名大神が現れ、このヨモギを煎じて飲めば病はたちどころに治ると教えられたそうだ。その教えの通りにすると、病はたちまちに癒えたという。少彦名大神の御神恩に感謝した里人等は、少彦名大神を御祭神とし、この十二所神社を創建した。十二所神社は、病気平癒、健康促進、家内安全の神様として広く崇拝されている。

同じ境内には播州皿屋敷お菊物語で知られている、烈女お菊が祀られた「お菊神社」があった。ここでは、物語の中心となる皿にちなんで、お皿に願い事を書き、御祈願すると願いを叶えて下さるそう。是非とも訪れてみてはいかがだろうか。

▲十二所神社

神社巡りの醍醐味の一つとして、御朱印集めというのがある。巡礼者がお寺で納経をした際の証として納経印を授与していたものが原形とされる説があるが、現在では経を納めなくともいただくことができる。(御朱印を集める場合は御朱印帳のご購入が必要です)

神社を参拝する際には、神様がいる境域に足を踏み入れているということを忘れないでほしい。いつも何気なく通っている神社にも、訪れた時にはまた違う見方ができるかもしれない。

神社を知ると、その周囲にある町の歴史も知ることができる。この記事を読んで、少しでも興味を示してもらえたなら、自身の足で訪れてみてはいかがだろうか。

（3D　日下部）

朗読コンテスト 審査員特別賞

あひるの仔

朗読コンクールで審査員特別賞をとった演劇部の3D松本静さん（朝日中）に話を聞いた。松本さんは、練習の成果が評価されて嬉しいと話した。

賞を取るまでの1か月間、ひたすら練習をしていたそうだ。朗読が上手な人のCDを聞いて耳でコピーをし、母音1つ1つ発声していき、子音やイントネーションの確認、鼻濁音の拡がりや消え方にも気をつけながら録音して何度も聞き返して感覚で覚え、練習する。

演劇は体全体を使って表せるが、朗読は視覚情報なしで声だけで表すためとても大変で、言葉に感情を乗せて、相手に伝え、情景が浮かぶようにすることがとても難しかったと話していた。1回録音をするのに体力が大幅に削られる。1度ミスをすればまた最初から撮り直しになるため、何度撮り直したか分からない上、体力と共に精神的にも辛い作業になった。辛いと思ったことはあったが、周囲も同じ様に頑張っていたため、より頑張ることができたそうだ。

積み重ねと持続し続ける能力の大切さを身に沁みて実感した。演劇は自分を変えるきっかけになる。これから、演劇部の経験を生かし、準備をして人前で臆することなく、頑張っていこうと思う、と語った。

今後の演劇部の後輩達の活躍にも期待したい。

（3D　三島）

3D　松本静さん

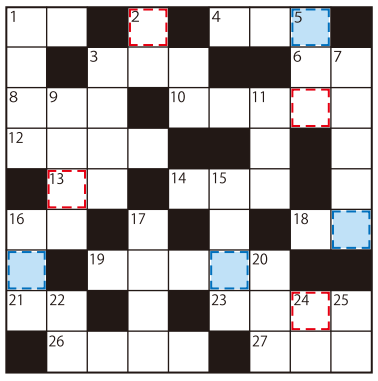
沈思黙工

3年生は大半の人が進路が決まったと思います。進路が決まって気が抜けると思いますが、やるべきことはきちんとするように心掛けましょう▼期末考査が終わりました。3年生は進路が決まってあまり勉強に対するモチベーションが上がらなかったかもしれません。今回悪い点数を取ってしまった人は、次の考査に向けて今から頑張りましょう▼コロナの注射で休む人がたくさんいました。副作用がひどかった人、また全然出なかった人もいたでしょう。私はまだ打っていません。今のところ打つ予定は立てていません。ワクチンへの考え方は人それぞれですが、マスクのいらない生活に戻るための一つの手段だと思います▼最近急に寒くなってきました。体調を崩さないように気をつけてください▼今回、初めての試みでクイズを掲載しています。ぜひ解いてみてください。

（3D　西牧）

◆クロスワードクイズ◆

クロスワードを解いて二十枠の文字をうまく並び替えると答えがわかります。小さい文字（ャ、ュ、ョ、ッなど）は大きい文字として扱います。



◆たてのカギ◆
1好古園の裏に続く散策路は「○○○○の小径」。
2千姫が大阪城から救い出されたのは「大阪○○の陣」。
3主義や主張、政策などに賛同して、そのあと押しをする人。
4うたがったり、ねたんだりすること。
7舞踏会でガラスの靴を落としたのは「□□□□□」。
9人に会うこと。
11患者の静脈内に健康な人の血液を送り込むこと。
15千姫が天満宮に奉納したのは○○○○。
16あいさつをする　人の話を聞く　ルールを守る　で○○○。
17進む方向に後ろから吹いてくる風。
20初秋の風を　○○○にまきとりて（千姫の小径にある歌碑より）
22屋外や屋上にテーブル席をしつらえ、ビール
　などを提供する酒場を□□ガーデンという。
24記号で書き表す質量の単位は□□。
25桃太郎が連れているのはイヌ・サル・□□。

◆よこのカギ◆
1風邪をひいたり、むせたりしたときに出るもの。
3ぜいたくでなく、つつましいこと。
4十二所神社の御神紋は「○○○の葉」。
6抜き足□□足忍び足。
8本多忠政は「○○○城」の城主となった。
10神社巡りは「○○○○○集め」が醍醐味の1つ。
12建築物を積層ゴムなどで支持し、地震時の揺れを低減させる構造を
　「○○○○構造」という。
13蚊を防ぐためにつりさげて寝床をおおうもの。
14常温で液体が気体になること。
16かわいがり、いつくしむ心。また、大事なものとして慕う心。
18お菊神社では○○に願い事を書いて御祈願する。
19体育館に並べられる、折りたためる椅子は□□□□□。
21振り仮名。
23千姫が一目惚れしたのは「本多○○○○」。
26製造業・建設業の現場で安全意識を高めるための
　挨拶は「ご○○○○に」。
27マイクロ波によって加熱する調理器具は電子○○○。

○に入るのは
この姫工新聞
66号内に
ある語句です。

問題
1. □□□□　ヒント：動物
2. □□□□　ヒント：植物

（参考）　M機械　E電気　C工業化学　Dデザイン　W溶接　R電子機械